

国際競争力の強化と 持続発展するまちづくり

～本年度神戸市港湾局主要施策より～

1

神戸港における 最近の取り組み

世界的に感染拡大した新型コロナウイルスによる港湾物流への影響や、ロシアのウクライナ侵略を契機とした世界的な物価高や円安の進行など、世界経済の先行きが不透明な中、港湾物流を取り巻く環境も予断を許さない状況にあります。神戸港の港勢は、コロナ前と同程度まで回復傾向にある状況です。

昨今、急速に変化する社会経済情勢を踏まえ、神戸港では、概ね10年間に取り組むべき内容や方向性を示す「神戸港中期計画」と「神戸ウォーターフロントビジョン」を2022年12月に策定しました。また、2023年2月には、港湾における2050年カーボンニュートラル実現に向けた基本的な方向性を示す「神戸港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画」を策定するなど、「港湾・産業」「にぎわい・都市」「環境」の各分野で神戸港の競争力強化に取り組んでいるところです。

神戸港中期計画

「神戸港中期計画」は、神戸開港150年の節目を機に、2017年に策定した「神戸港将来構想」（30年構想）に掲げる目指すべき姿を見据えつつ、近年の社会経済情勢も踏まえ、概ね10年間（2030年代前半）に取り組むべき内容や方針を示すものとして策定しました。

同計画では、将来構想と同様に、港湾物流等を主体とする「港湾・産業」分野と、ウォーターフロント再開発等を主体とする「にぎわい・都市」分野で主要施策を掲げ、それぞれ「グローバルサプライチェーンの中で、世界から選ばれ続ける総合物流港」と「非日常の空間を提供し、国内外からの来訪者を魅了するみなど」の実現を目指しています。

神戸ウォーターフロントビジョン

都心・ウォーターフロントエリアの再開発は、「『港都 神戸』グランドデザイン」（2011年策定）に基づき進めているところですが、策定から10年が経過し、新港突堤西地区の再開発の進展や神戸空港の国際化など、社会情勢が大きく変化している中、今後10年間で取り組むべき施策の方向性を示すものとして「神戸ウォーターフロントビジョン」を策定しました。

同ビジョンでは、新港突堤西地区、中突堤周辺地区、京橋地区のエリア毎にコンセプトを定め、「緑あふれる新たな『海辺』まちの創出」を全体コンセプトとして掲げています。

カーボンニュートラルポート

2022年3月に国土交通省において「CNPの形成に向けた施策の方向性」と「CNP形成計画策定マニュアル」が策定されたことを受け、昨年度、神戸市が事務局となり、学識経験者や民間事業者、関係団体で構成する「神戸港CNP協議会」による議論を重ね、2023年2月に「神戸港CNP形成計画」を策定しました。

同計画では、神戸港の独自性を示した3つの“C”【Challenge(挑戦)、Collaboration(協力・連携)、Community(共同体)】をコンセプトとし、他港に先駆けて、GHG排出実質ゼロを目指すとともに、水素等の次世代エネルギーの供給インフラを整えることで、港湾としての競争力強化を図り、ひいては気候変動問題に貢献していくことを方針として掲げています。

海外諸港と連携した取り組みでは、2022年10月に、脱炭素化の先進港である米国ロングビーチ港と港湾の脱炭素化に向けた連携協定(MOU)を締結しました。また、2022年11月には、港湾におけるクリーン水素の供給と需要拡大を目指す「CEM グローバル港湾水素連合」に日本の港湾で初めて加入了しました。

神戸空港の国際化

神戸空港は、2025年に国内線の発着回数を1日あたり最大80回から120回に拡大するとともに、国際チャーター便の運用を開始し、2030年前後には1日あたり最大40回の国際定期便の運用を可能とすることが2022年9月の関西3空港懇談会で合意されました。

新たなステージに進む神戸空港が、神戸経済の成長を担う観点から果たす役割は大きく、2025年大阪・関西万博、その先の航空需要の拡大を見据え、神戸空港の価値を向上させ、将来の神戸のまちの成長・発展につながる取り組みを進めています。

2

令和5年度 港湾局予算概算

令和5年度の主な取り組み

神戸市の令和5年(2023)度当初予算は、「海と山が育むグローバル貢献都市の実現」を掲げ、神戸空港の国際化やポストコロナを見据え「さらなる高み」を目指すこととしています。港湾局では、港湾物流分野において、日本の港湾物流を支える西日本のゲートポートとして、引き続き、国際コンテナ戦略港湾施策を推進するとともに、港湾における脱炭素化に向け、カーボンニュートラルポート(CNP)の形成に取り組めます。

賑わい創出分野では、新港突堤西地区及び中突堤周辺地区を中心にウォーターフロント再開発を進めるほか、六甲アイランドのマリンパーク再整備やポートアイランド(第2期)西緑地の整備等にも着手します。また、須磨海岸エリアでは、引き続き海上航路の実証運航や西エリアも含めた回遊性・利便性向上に向けた検討・整備等に取り組めます。

安全・安心なみなどづくりでは、平成30年の大型台風による高潮被害に対する再度災害防止に向け、引き続きハード対策を進めるほか、陸間等の遠隔操作化などを進めていきます。

次に、令和5年(2023)度における港湾局の各主要施策について、詳しくご紹介します。

国際コンテナ戦略港湾

「集貨」施策では、内航フィーダーを活用した瀬戸内・九州・日本海からの集貨や東南アジア・北米間をはじめとする神戸港でのトランシップ貨物の集貨に取り組み、基幹航路の多方面・多頻度化など航路網の充実を図ります。

また、総合港として神戸港の高い港湾技術力を発信しながら、コンテナ貨物に加え、在来貨物の集貨・航路誘致を積極的に進め、様々な貨物に対応できる神戸港のさらなる利便性向上に取り組むほか、脱炭素など環境に配慮した集貨の取り組みを進めます。

「競争力強化」では、高規格コンテナターミナルの

整備に加え、大阪湾岸道路西伸部の事業促進や阪神港CONPAS導入などによる港湾物流の円滑化を図ることで、神戸港の生産性向上を図り、国際競争力を強化します。



大型コンテナ船着岸の様子

カーボンニュートラル(CNP)の形成

港湾法の一部改正に伴い、「神戸港 CNP 形成計画」を「港湾脱炭素化推進計画」へ移行するほか、具体的な取り組みでは、現在工事を進めている停泊船舶への陸電供給設備が、2023年秋頃に供用開始を予定しています。また、港湾施設（上屋等）を対象とした再生可能エネルギー（太陽光発電）の導入検討も行っています。

コンテナターミナルを中心とした港湾エリアの脱炭素化の取り組みでは、港湾荷役機械（RTG、構内トラクター等）や船舶への水素供給方法などに關し、先進的な取組みを検討する民間事業者に対し、実証フィールドの提供とともに、実証事業などへの支援を進めます。

海外連携では、連携協定（MOU）を締結したロングビーチ港などの海外先進港とともに、港湾の脱炭素化に向け連携して検討を進めていきます。

CO₂吸収源の取り組みでは、ブルーカーボン生態系の更なる活用を進めるため、藻場等のモニタリング調査を実施するほか、Jブルークレジットにより得られた資金を活用し、民間事業者等のブルーカーボンの保全・創出活動に対する支援なども行っていく予定です。



港湾エリアにおける水素供給の実証イメージ



神戸港のCNP形成のイメージ

ウォーターフロントの魅力向上

新港突堤西地区では、第1突堤基部に続き、第2突堤の大規模多目的アリーナが2025年4月の開業を目指して進んでいるほか、第1・第2突堤間の水域活用に向けて防波堤や親水エリアの整備を行うとともに、次期再開発エリアの事業化に向けた取り組みを進めます。

中突堤周辺地区では、2024年春のリニューアルオープンを予定している神戸ポートタワーの工事を進めるとともに、中突堤中央ビル再整備の具現化を進め、観光・エンタランスエリアとしての機能強化を図ります。

これらの再開発に加え、ハーバーランド～中突堤～新港突堤西地区を有機的につなぎウォーターフロントエリアの回遊性を高めるため、京橋地区において、阪神高速3号神戸線の大規模更新事業に合わせた高架道路周辺の利活用に向けた取り組みを進めます。

また、夜間景観の魅力向上を図るため、照明の整備やウォーターフロントエリアを楽しむことができる光の演出の検討を行います。



新港第1・2突堤間の水域活用イメージ



神戸ポートタワー 完成予想図

市民に親しまれるみなとづくり

ウォーターフロントエリアにおけるナイトタイムエコノミーを推進するため、分散型花火・イルミネーションによる夜間景観形成など、新たな賑わいづくりを周辺の事業者と連携して取り組みます。

海事分野の人材育成については、神戸海洋博物館における企画展などの取り組みに加え、青少年が海・船・港に親しみ港湾産業の重要性を学ぶ機会づくりとして、神戸港バックヤードツアー、みなとの学習会の開催を通じて、学校教育・海技教育機構・遊覧船など港湾関係事業者と連携した取り組みを進めていきます。

また、六甲アイランドでは、マリンパークの利便性や魅力向上のため、背後地の賑わい施設整備に併せて、海釣り広場や親水空間を中心とした再整備を進

めるとともに、ポートアイランド(第2期)西緑地では、利活用を促進するため、未供用区間の整備や親水エリアの導入に向けた検討を行います。



冬のイルミネーション「メヤマヤ」

クルーズ・フェリー受入れによる地域活性化

2023年3月から、3年ぶりに外国船によるクルーズが再開しました。国際クルーズの再開による寄港需要を捉え、港と空港が近い地理的優位性を活かしたフライ&クルーズを推進するとともに、プレミアム・ラグジュアリー船による瀬戸内クルーズをはじめとする神戸発着クルーズの誘致や誘客促進に取り組むことにより、広域からの交流人口の拡大を図ります。

また、内航フェリーの活性化を図るため、フェリーによる船旅の魅力のPRや利用促進に取り組めます。



神戸港発着クルーズイメージ

須磨海岸エリアの魅力向上

須磨海岸に隣接する須磨海浜水族園・海浜公園では、2024年の供用に向けた再整備が進む中、須磨エリア一帯の魅力的で賑わいある空間づくりに取り組めます。

回遊性・利便性向上に向けた取り組みでは、JR須磨駅から海づり公園に至る西エリアの導線検討を行うほか、須磨ヨットハーバー周辺の歩行者動線の改修を行います。

新たな賑わいづくりに向けた取り組みでは、昨年度に引き続き、サイクルツーリズムと連携した海上航路実証実験(スマアワ)を拡充のうえ実施するほか、四季を通じた賑わいづくりに向け、様々なビーチスポーツイベントを開催します。



須磨海浜水族園・海浜公園再整備イメージ

神戸空港の機能強化

2025年の国際チャーター便の運用開始・国内線発着枠拡大に向け、空港基本施設やサブターミナルの整備など、神戸の空の玄関口にふさわしい施設整備を行います。また、神戸空港の需要拡大、2030年前後の国際定期便就航に向け、広域ネットワーク機能の調査・検討を進め、神戸以西の新たな市場開拓などに取り組みます。

カーボンニュートラルエアポート形成に向けた取り組みでは、合成メタンやSAF（持続可能な航空燃料）の導入検討などの取り組みを進めます。

また、神戸空港の国際化・発着枠拡大を踏まえ、神戸空港島の戦略的な利活用を図るため、ウォーターフロント再開発などのプロジェクトとの連携を踏まえた

土地利用のあり方を検討し、神戸空港島の将来ビジョンを策定するとともに、神戸空港と海上アクセスターミナル間のアクセス向上のため、南北の新たな動線としての歩行者デッキ整備に向けた検討を行います。



サブターミナル整備イメージ

安全・安心なみなとづくり

発災後、短時間で到達する津波に対し、防潮鉄扉等を迅速・確実に閉鎖するとともに、閉鎖従事者のさらなる安全確保を目的に、防潮鉄扉等の遠隔操作化に順次取り組んでおり、2024年度末には、神戸港全域の遠隔操作化の完了を目指しています。

2018年の大型台風による高潮被害を受け進めている、再度災害防止対策では、ポートアイランドにおいて、排水ポンプ整備や道路の高上げなどによる緊急輸送路の浸水対策に取り組むほか、六甲アイラン

ドにおいても引き続き荷捌き地や背後道路の地盤高上げを進めます。



六甲アイランド高上げ工事の様子

3

おわりに

神戸市では、神戸空港の国際化への対応やSDGs、ポスト・コロナの視点を取り入れた未来に輝くまちづくりなどを進め、国際都市としての新たなステージと歩みを進めています。

神戸港においても、「神戸港中期計画」や「神戸ウォーターフロントビジョン」に掲げる方向性に基づき、令和5年（2023年）度予算で取り組む施策を着実に推進し、「港湾・産業」「にぎわい・都市」の両面から、国際競争力強化と持続発展するまちづくりに貢献してまいります。

“みなと”におけるSDGsの取り組み



国内外の多くの企業が取り組んでいる SDGs。国土交通省が、『みなと SDGs パートナー登録制度』を開始したことにより、港にも SDGs の波が訪れています。「よく聞けれど、結局 SDGs って何？」この波に乗り遅れないように、わかりやすく解説します。

今さら聞けない SDGsとは？

「SDGs (=持続可能な開発目標)」は、国連で採択された2016年から2030年までの国際目標です。紛争・気候変動・感染症。様々な課題に直面する人類が、地球上で持続的に活動が続けるために達成すべき目標が定められています。

17のゴール(2030年のあるべき姿)と169のターゲット(具体的な目標)を定めているSDGs。この17のゴールは、大きく「社会」「経済」「環境」の3つに分類され、それぞれの観点から、社会課題にアプローチしています。全世界で一体となつての目標達成を目指しており、世界中の企業がSDGs達成に向けた自社の取り組みを発信しています。



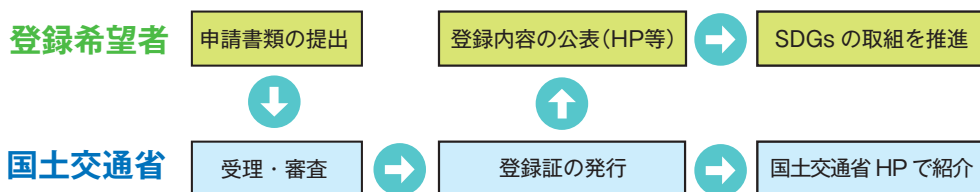
港湾関連企業等で取り組む“みなとSDGs”！

国土交通省は令和4年度より、みなとSDGsパートナー登録制度を開始しました。世界的なSDGs達成に向けた取り組み推進が起る中で、港湾関連企業のSDGsへのより積極的な取り組みを目指しています。自社とSDGsにはどんな関連があるのか、「気づき」を得る機会となるのが期待されており、日本港湾及び港湾関係産業の魅力向上と将来にわたる持続的な発展を目的として創設されました。



SDGsが国連で採択されてから5年。今や世界中の企業がSDGs達成に向けた取り組みを行っており、SDGsに取り組むことが企業ステータスに直結すると言っても過言ではありません。とはいえ何から取り組めば良いのが難しいSDGs。みなとSDGsでは、申請作業を通して、自社の事業とSDGsの関連に気づくことができます。SDGsへの入り口として活用できる制度です。

みなとSDGs パートナー登録制度手続きの流れ



申請書類の提出

(書類は国土交通省HPでダウンロード→申請書類に記入→メールで提出)

- 申請書
- 具体的な取り組み
- 誓約書
- HP内か社内案内上にSDGsに対する取り組みに関する記載

提示項目と自社事業と照らし合わせ、具体的な取り組みを書きだしていく。(記入することが気づきに繋がる重要な書類)

評価項目

経済

全ての人間が豊かで充実した生活を送れるようにするとともに、自然と調和した経済、社会および技術の進展を確保する。

環境

持続可能な消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応など通じ、地球を劣化から守ることにより、現代と将来の世代のニーズを充足できるようにする。

社会

あらゆる形態と次元の貧困と飢餓に終止符を打つとともに、すべての人間が尊厳を持ち、平等に、かつ健全な環境の下でその潜在能力を発揮できるようにする。

意外とある!? 我が社のSDGs

「自分の会社とSDGsには何の関連もないのではないか」そんなことはありません。普段行っている些細なこともSDGs達成に向けた立派な活動になり得ます。例えば、職場でのタンブラーの活用やLED照明の利用も立派な取り組み！改めて周りを見渡すと、SDGs達成への取り組みがまだまだ隠れているかもしれません。

日本港運協会では、2021年10月より、ESG・SDGs対策委員会を開催。SDGsに対する港運事業者の取り組みについての話し合いを重ねています。同委員会に兵庫委員として参加されている、商船港運株式会社 代表取締役社長 実謙二氏にお話を伺いました。



商船港運株式会社
代表取締役社長
実 謙二 氏

まず大前提として、企業というものは社会的意義があって存在しています。港運事業者は国内物流と国際物流の結節点として貿易の成り立ちを支えており、それだけでも大きく社会に貢献しているはずですが、しかし、だからと言ってやみくもな企業活動だけでは企業の存続はあり得ません。昨今では、環境、安全・健康、イノベーション、人権等への配慮がいっそう求められており、それらを包括する国際目標であるSDGs達成に向けた活動は必要不可欠です。世界的に広まるSDGsへの取り組みに加わることで、国際的なサプライチェーンの中で評価され、選ばれる企業として成長していくことに繋がると考えています。

日本港運協会ESG・SDGs対策委員会では、「地球にやさしい未来港湾の創出」をテーマとした話し合いを行っています。その中で、①脱炭素②安心安全・防災・感染症対策③技術革新④働きがい・人権等の4つを優先的に取り組む事項として定めており、具体的に港運事業者が何をしていくと良いのかを検討しています。

しかし、SDGsのゴール項目はいささか漠然としすぎており、自社との具体的な関連を見出しづらいかもかもしれません。そのような中、みなとSDGsパートナー登録制度は、ハードルが高すぎず、比較的容易に参加ができるため、SDGsについて考える良いきっかけになると思います。申請書類には、漠然としたSDGsゴール項目がより具体的な文言で記載されており、この申請書類の作成を進めていくだけで、自社とSDGsの関連性に気づくことが十分に可能です。

将来的には、みなとSDGsへの参加者が増え、官民一体となってSDGsへの取り組み推進を図っていく流れを構築することで、港湾関連企業が若者を含む社会にいっそう認知される存在になっていければと考えています。

神戸港振興倶楽部会員企業も登録いただいています！

(第一回登録企業)

- ・株式会社 大森廻漕店
- ・株式会社 上組
- ・商船港運株式会社
- ・株式会社 住友倉庫
- ・一般社団法人 全日検

- ・株式会社 辰巳商会
- ・三井倉庫株式会社(MSCグループ)
- ・三菱倉庫株式会社
- ・株式会社 ユニエックスNCT

(第二回登録企業)

- ・山九株式会社
- ・澁澤倉庫株式会社
- ・日本紙運輸倉庫株式会社
- ・深田サルベージ建設株式会社
- ・日本ポート産業株式会社

神戸観光局港湾振興部では パートナー登録制度取得を目指して ワークショップを開催しました

神戸観光局 港湾振興部では、みなとSDGsへの申請に際し、ワークショップを開催しました。SDGs達成に繋がる既存事業の検討や、SDGs達成に繋がる新規事業や組織体制についての意見共有を実施。早期に実現可能なものから、夢のようなアイデアまで様々な意見の共有が実現しました。

SDGs達成に繋がる既存事業の存在に気づくと同時に、改めて事業を振り返るきっかけとなった今回のワークショップ。無事、みなとSDGsパートナーへの登録も叶いました。今後は職員から出された意見をもとに、SDGs達成に向けた事業創出を目指します。

ワークショップでの気づき



クルーズ客船の入出港イベントの際に利用するバルーン。華やかに港を彩ります。神戸港では、環境に配慮した自然に還る素材のバルーンを使用。環境保護の観点や、再生資源利用の観点から、SDGs達成にダイレクトにつながるものと再認識しました。



神戸市内の小学生を対象に行っている「みなとの学習会」。船に乗って神戸港を巡り、船上で解説を行います。港の施設や船について子どもたちに伝え、海・船・港の仕事に興味を持ってもらうことを目的としています。現在、社会課題となっている「海事人材」減少の解決に向けた活動です。